



角田 社長

角田副社長が社長就任

安藤社長は代表取締役会長に

検査大手のジャスト(本社・横浜市青葉区)では3

日、角田賢明代表取締役副社長が社長に就任した。昨年12月の取締役会決議に基づいたもの。安藤純二社長は代表取締役会長に就いた。就任にあたり、角田社長は「当社は『あらゆる構造物が安心・安全に利用でき

る世界をつくる』ことを企業使命とし、創業以来50年間で数十万棟の構造物を検査・調査・診断してきた。『困ったらジャストへ!』を信念とし、非破壊検査/建築・土木/テクノロジー技術を通じてお客様のあらゆる課題を解決することを目指した。その上で「常に技術とサービスのアップデートを繰り返し、『唯一無

安定的な線接合が可能に

ダイヘンが樹脂と金属の接合技術開発

ダイヘン(本社・大阪市淀川区田川2-1-11、☎06-6301-1212)はこのほど、樹脂と軽金属との接合技術を開発した。新技術では難接合樹脂の

PP(ガラス繊維補強タイプ)や工業的に広く利用されているPPS(ガラス繊維補強タイプ)と、輸送機器で広く利用されている超ハイテン材(SPPFC98

の普及が進む中、さらなる車体軽量化を目的に樹脂の活用が増えると分析し、その結果に基づいて樹脂と金属との異材接合技術として開発したものの。

二の価値』の提供を通じて、社会・お客様・社員に対して、幸せを創り続ける」としている。

0)の安定的な線接合を可能にした。開発実験において接合後の引張せん断試験で樹脂母材破断を実現するなど強度を確認している。同接合技術は電気自動車

4月生産は1.3%減の201万ト 普通鋼電炉工業会

H形鋼5%増、中小形鋼3%増

普通鋼電炉工業会(会長 内田裕之・合同鉄鉄社長)がまとめた4月の電炉鋼の粗鋼生産は前年同月比

1・3%減の201万1600トと2カ月連続で前年同月を下回った。主な品種別には、H形鋼が同4・9%増、中小形鋼が同2・7%増、小形棒鋼が同5・7%増などとなっている。H形鋼の生産は同4・9%増の29万9039トと9カ月連続の増加だった。出荷は同11・9%増の29万9113トと9カ月連続の増加で、内訳は国内が同4・9%増の26万8486トと2カ月ぶりの増加、輸出が同167・0%増(約2・7倍)の3万627トと3カ月連続の増加。在庫はメーカが同3・0%増の22万7855ト、問屋が同14

・6%増の6万4411ト、メーカ・問屋計では同5・4%増の29万2266ト。在庫率は97・7%。中小形鋼の生産は同2・7%増の6万3787トと5カ月ぶりの増加。出荷は同5・9%減の6万2945トと3カ月連続の減少で、内訳は国内が同5・8%減の5万8584トと8カ月連続の減少、輸出が同7・3%減の4361トと8カ月ぶりの減少。在庫はメーカが同5・4%減の7万7677トと3カ月連続の減少、問屋が同1・5%減の1万5661トと2

カ月連続の減少、メーカ・問屋計では同4・8%減の9万3338トと3カ月連続の減少。在庫率は148・3%。小形棒鋼の生産は同5・7%増の68万1158トと2カ月連続の増加(うち鉄筋用は同6・3%増の64万9022トと2カ月連続の増加)。出荷は同9・3%増の70万6698トと3カ月連続の増加で、内訳は国内が同8・3%増の65万6810トと2カ月連続の増加(うち鉄筋用は同9・1%増の62万3397トと3

ステンレス用溶接材料を値上げ 7月1日出荷分から約20%

神鋼・溶接事業部門

神戸製鋼所 溶接事業部門(部門長 末永和之・執行役員)は、ステンレス鋼用の溶接材料を7月1日出荷分から約20%値上げする。神鋼による「ステンレス鋼用溶接材料の主要原材料、線材・薄板・配合溶剤の調達価格高騰に伴い昨年の10月に値上げを実施したが、その後も原材料価格の上昇が続く、ロシアのウクライナ侵攻などの国際情勢もニッケル、クロムなど各種合金原料の急騰に拍車をかけている。副資材、運賃コストも上昇する中、安定調達のためには値上げを受け入れざるを得ない厳しい状況」と説明。「コストアップは自社努力だけでは吸収できない。溶接材料の供給責任を果たし続けるためには製品価格に転嫁せざるを得ない」と判断し、値上げに踏み切った。

屋が同22・7%増の2万6148トと18カ月連続の増加、メーカ・問屋計では同4・4%減の60万78トと2カ月連続の減少だった。在庫率は84・9%。